

平成 29 年度

公立大学法人都留文科大学年度計画



公立大学法人 都留文科大学

平成 29 年度 公立大学法人都留文科大学 年度計画

目次

I 基本目標の推進	1
1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	1
2 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置	8
3 地域貢献及び国際化に関する目標を達成するためにとるべき措置	9
4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	12
5 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	14
6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置	15
7 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置	15
II 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画	17
III 短期借入金の限度額	19
IV 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	19
V 剰余金の使途	19
VI 施設及び設備に関する計画	20
VII 積立金の使途	20
VIII その他法人の業務運営に関し必要な事項	20

(注) 【 】内に番号が付してあるのは中期計画に定められた項目である。各項目の(ア)以降が年度計画の項目となる。

I 基本目標の推進

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 教育に関する目標を達成するための措置

ア 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

(ア) 学士課程・専攻科課程・大学院課程共通

① 卒業論文(必修)の作成に向け、学習計画の立案を支援する。【数値目標】【1】

(ア) 引き続き、卒業率(卒業認定合格者数÷4年次在学者数×100)83%以上を目指す。

② 3年生以降への学術情報リテラシー教育※1を拡充する。【数値目標】【2】

(ア) 引き続き、大学附属図書館ゼミ・クラスガイダンス延べ参加学生数600名以上を目指す。

③ 既存学部、学科、専攻科、大学院の見直し、再編を行う。【3】

(ア) 文部科学省へ教養学部、学校教育学科、地域社会学科の設置届を提出する。

(イ) 文部科学省から学校教育学科、地域社会学科の課程認定書の公布を受ける。

(ウ) 教養学部、学校教育学科、地域社会学科について、学生募集広報など開設準備を進める。

④ 国際教育学科(仮称)を新設する。(29年度)【4】

(ア) 平成29年4月に新入学生を迎え国際教育学科を開設する。

(イ) 国際バカロレア機構から認定されたIB Universityとして、IB公開講座等を実施する。

(ウ) 国際バカロレア機構との連絡調整を行いながら、IBCTL(PYP、MYP、DP)の適切な運用を行う。

⑤ 学部において、新たな免許種(特別支援学校教諭一種免許)※2の課程を新設する。(29年度)【5】

(ア) 平成29年4月から特別支援学校教諭の課程を新設する。

(イ) 新たな特別支援学校教諭の課程を適切に運営する。

⑥ GPA制度※3の検証を行い、必要に応じて見直しを行う。【6】

(ア) GPA制度の活用方法について検討する。

⑦ 年間履修単位数の検証を行い、必要に応じて見直しを行う。【7】

(ア) プロジェクトD(カリ改革)チームにおいて、学部・学科改編業務とも調整を図りながら年間履修単位数の見直し原案を作成し、それについて各学科等で検討を行う。

⑧ 学生、保護者、就職先企業・学校等を対象とした調査を計画的に実施し、教育ニーズ等の把握に努める。【8】

(ア) 新入生入学動機等調査を実施し、分析結果を活用する。

(イ) 在学生満足度等調査を実施し、分析結果を活用する。

(イ) 学士課程

a アドミッション・ポリシー(AP)※4に応じた入学者選抜を実現するための具体的方策

① 入学者選抜方法を点検し、適切な改善を図る。【9】

- (ア) 学科改編に向けた入学者選抜方法の見直しを行う。
- ② 入学志願者数 5,000 名以上を確保する。【数値目標】【10】
- (ア) 入学志願者数 4,400 名以上を確保する。
- (イ) 入試種別各試験会場の志願者数の検証を行い、試験会場の見直しや新規開拓について検討する。
- ③ オープンキャンパス参加高校生の増加を図る。【数値目標】【11】
- (ア) オープンキャンパス参加高校生 1,350 名以上を確保する。
- ④ 高校訪問を年間 400 校以上実施する。【数値目標】【12】
- (ア) 引き続き、高校訪問を年間 400 校以上実施する。
- ⑤ 推薦入学者を対象とした入学前教育の充実を図る。【数値目標】【13】
- (ア) 引き続き、入学前において ALC ネットアカデミー (LAN 環境で使用するネットワーク型学習システム) 利用者 100 名以上を目指す。
- (イ) 各学科において推薦入学者を対象とした入学前教育の課題内容を検討し、修学準備の充実を図る。
- b 教育理念等に応じたカリキュラム・ポリシー (CP) ※5 を実現するための具体的方策
- (a) 教養教育等
- ① 「学び続ける力」を培うため、持続的発展教育 (ESD) ※6 の充実を図る。【数値目標】【14】
- (ア) 大学附属図書館ガイダンスデータベース編、研究編について、卒業論文制作に結び付けた個別データベース講習会を開催する。また、キャリア支援に結び付け、就職活動期に的を絞った新聞記事検索データベースガイダンス、東洋経済新報社雑誌記事データベース等の検索ガイダンス等を開催していく。合わせて参加人数 100 名以上を目指す。
- (イ) 各種の環境分野で活躍できる人材を育成することを目的とした環境 ESD プログラムの充実を図る。
- ② 初年次教育の充実を図る。【数値目標】【15】
- (ア) 引き続き、アカデミック・スキルズ参加延べ学生数 300 名以上を目指す。
- (イ) アカデミック・スキルズのクラスに参加できない学生に対し、図書館ツアー・新生向け学科別ガイダンスを開催し、個人参加を促していく。また、学生サークル「Libropass=リブロパス」の協力を得て、個別の学生に対し、図書館案内(ツアー)を進める。合わせて参加人数 100 名以上を目指す。
- (ウ) 大学附属図書館ガイダンス基礎編について、アカデミック・スキルズのクラスに参加できない学生に対し、基礎編・新生向け学科別ガイダンスを開催し、個人参加を促していく。参加人数 50 名以上を目指す。
- ③ 大学での学習や研究に必要な基礎的情報技術及び社会人として必要な情報処理能力を習得させる。【数値目標】【16】
- (ア) 引き続き、Word&Excel 講座に、PowerPoint 講座を加え延べ参加学生数 100 名以上を目指す。
- (イ) 教職リテラシー系科目、情報リテラシー科目、情報フルエンシー系科目につい

て、クラス分けを行い効率的かつ効果的な授業を行う。

④ 外国語教育をより効果的、実践的なものとする。【数値目標】【17】

(ア) 引き続き、TOEIC-IPテスト延べ受験者数630名以上を目指す。

(イ) 引き続き、TOEFL試験延べ受験者数210名以上を目指す。

(ウ) 引き続き、中国語検定試験HSK延べ受験者数70名以上を目指す。

(エ) 英語教育において、社会活動を背景にした実践的語学指導を一定程度取り入れるため、外部委託による講師の派遣業務の導入を図る。

(b) 専門教育

① 学際的な視点及び実社会の中での課題探求能力、課題解決能力を身につけられるようカリキュラムを工夫する。【18】

(ア) プロジェクトD(カリ改革)チーム及び各学科において、学際的な視点及び実社会の中での課題探求能力、課題解決能力を身につけられるようカリキュラムを工夫する。

② 教員養成課程においては、履修カルテ(ポートフォリオ)を活用し、より実践的な学修を支援する。【19】

(ア) 履修カルテを活用して、学生が行う学校現場を体験する機会、子どもとの触れ合いの機会などが単なる体験活動に終始しないよう、省察的な活動を通して質の高い学修が行われるように教員が学生を支援する。

c ディプロマ・ポリシー(DP)※7の実施に関する具体的方策

① シラバス※8に示した学習目標への到達度を把握する。【20】

(ア) シラバスに示した学習目標への達成度の把握方法について検討する。

② 成績評価基準のガイドラインを作成し、実施する。【21】

(ア) 成績評価基準のガイドラインの作成について、検討を進める。

d 教育方法等に関する具体的方策

① 少人数教育を実施する。【数値目標】【22】

(ア) 引き続き、教員1名当たり学生数30名以内を目指す。

② e-ラーニング※9の活用を促進する。【数値目標】【23】

(ア) 引き続き、ALCネットアカデミー(LAN環境で使用するネットワーク型学習システム)利用者470名以上を目指す。

(イ) 海外からの留学生に対してe-ラーニングの活用促進を図る。

③ 大学附属図書館のオンラインデータベース、オンラインジャーナル、オンラインブック等 Web によるサービスを拡充する。【数値目標】【24】

(ア) 全学的に利用可能で適切なオンラインデータベース、オンラインジャーナル、オンラインブックを今後も導入していき、電子ジャーナル、データベース等の導入数17件以上を目指す。

(ウ) 専攻科課程

a アドミッション・ポリシー(AP)に応じた入学者選抜を実現するための具体的方策

① 入学者選抜方法を点検し、適切な改善を図る。(27～32年度)【25】

- (ア) 専攻科についての説明会等を開催し、より多くの志願者を集め入学者選抜を実施する。
- b カリキュラム・ポリシー(CP)を実施するための具体的方策
 - ① 理論と実践の統合された体系的なカリキュラムを編成する。【26】
 - (ア) 理論と実践の統合された体系的なカリキュラム編成ができていないかについて検証を行う。
- c ディプロマ・ポリシー(DP)の実施に関する具体的方策
 - ① 小学校教諭専修免許状取得者として身に付けるべき資質・能力基準を明確にする。【27】
 - (ア) 専攻科委員会において、3ポリシーの見直しを検討する。
 - ② 教員採用(臨時的任用を含む。)試験合格率 100 パーセントを目指す。【数値目標】【28】
 - (ア) 引き続き、教員採用(臨時的任用を含む。)試験合格率100パーセントを目指す。
- d 教育方法等に関する具体的方策
 - ① 教職支援センターを中心に、より質の高い教育プログラムを策定し実施する。【29】
 - (ア) 専攻科生に対して、教職支援センターが企画、運営する教育関係講座等への参加を促す。

(エ) 大学院課程

- a アドミッション・ポリシー(AP)に応じた入学者選抜を実現するための具体的方策
 - ① 志願者数の増加を図るため、周知方法・入学者選抜方法を点検し、適切な改善を図る。【30】
 - (ア) 魅力ある大学院教育を進めるための海外留学や国際学会等の奨学金制度についての周知を行うとともに、比較文化専攻において社会人選抜を実施する。
- b カリキュラム・ポリシー(CP)を実施するための具体的方策
 - ① 課程の特徴をさらに明確にし、各専攻の教育目標に対応させた体系的なカリキュラムを編成する。【31】
 - (ア) 課程の特徴をさらに明確にし、各専攻の教育目標に対応させた体系的なカリキュラム編成について検討を進める。
 - ② 修了生からの意見等を通じ、教職現場での必要な教育内容等を調査し、常に教育内容や教育方法を改善していく。【32】
 - (ア) 修了生からのアンケート結果を基に、教育内容や教育方法の改善に努める。
 - ③ 留学制度や通信制など実現可能な新たな教育方法を導入する。【33】
 - (ア) 院生の留学制度の導入について、大学院運営会議で検討を進める。
- c ディプロマ・ポリシー(DP)の実施に関する具体的方策
 - ① 修士の資質・能力基準を明確にする。【34】
 - (ア) 大学院及び5専攻の3ポリシーに掲げる修士の資質・能力基準に基づき運用する。
 - ② 成績評価基準のガイドラインや評価方法の洗練化を図り適切な成績評価を実施

する。【35】

(ア) 成績評価基準と評価方法に基づき、適切な成績評価を実施する。

d 教育方法等に関する具体的方策

① 教員と院生が共同で問題解決を行うプロジェクト型授業を充実・発展させる。【36】

(ア) 臨床教育実践学専攻のプロジェクト型授業の受講促進を図る。

② 修士論文の評価基準を公表する。【37】

(ア) 修士論文審査の評価基準を公表し適正に実施する。

(2)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適切な教職員の配置に関する具体的方策

① 教育目標を効果的に達成し教育研究に寄与できる弾力的な教員配置を行う。

【38】

(ア) 平成30年度教員配置計画を策定する。

② 非常勤講師、特任教員等の有効活用を図る。【39】

(ア) 特任教員(初等教育学科2名、国文学科1名、国際教育学科2名、教職支援センター2名)を採用する。

イ 教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備に関する具体的方策

① 本学を中心として、市民と学生が集い、学問や文化・芸術・体育が融合した学園のまちを総称する「教育首都つる」※10の実現に向け、中長期的な整備計画(キャンパスランドデザイン「まちとつながり森に溶け込む“知のフォレストキャンパス(仮称)”」)を策定し、実施する。【40】

(ア) 「知のフォレストキャンパス(仮称)」構想を策定し、実施する。

② ラーニング・コモンズ※11として学生の自学・自習スペースを整備する。【数値目標】【41】

(ア) 引き続き、大学附属図書館学習室・研究スペース年間利用件数1,500件以上を目指す。

(イ) 新講義棟にラーニング・コモンズとして学生の自学・自習スペースを設置する。

③ 大学附属図書館の教育研究図書・資料を計画的に購入する。【42】

(ア) 平成27年度から3か年計画である「第7次重点図書整備計画」に基づき、大学附属図書館に収集すべき図書群を構築する。

(イ) 「第8次重点図書整備計画」(平成30年～32年)のテーマを教員等から募集し、決定する。

(ウ) 大学附属図書館所蔵の貴重資料の中で、富士山に関連する資料のデジタル化を促進する。

④ 大学附属図書館のオンラインデータベース、オンラインジャーナル、オンラインブック等 Web によるサービスを拡充する。【数値目標】【再掲】

(ア) 全学的に利用可能で適切なオンラインデータベース、オンラインジャーナル、オンラインブックを今後も導入していき、電子ジャーナル、データベース等の導入

数17件以上を目指す。【再掲】

ウ FD※12 活動並びに教育活動の評価及び評価結果を質の改善につなげるための具体的方策

① 教育に関する点検・評価を実施し、その結果に基づき教育の質の改善を図る。

【数値目標】【43】

(ア) 引き続き、FD講演会を延べ2回以上開催する。

(イ) 引き続き、教員業績評価を実施する。

② 開講科目の授業評価アンケートを実施し、授業の改善を促進する。【数値目標】

【44】

(ア) 引き続き、授業評価アンケート(専任)実施率95%以上を目指す。

(イ) 授業評価アンケート(非常勤)実施率74%以上を目指す。

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア 学生の学習支援に関する具体的方策

① 新入生全員にメンタルテストを実施し、問題を抱える学生には個別面談を実施する。【45】

(ア) 新入生全員にメンタルテストを実施し、問題等を抱える学生に対して個別面談を実施する。

② ハラスメント申し立ての窓口を周知し、迅速に対応する。【46】

(ア) ハラスメントについての申し立ての窓口を周知し、迅速に対応する。

③ 三者協議(学生、教員、職員)、学生アンケートなどで学生の意見収集を行い、改善を図る。【数値目標】【47】

(ア) 引き続き、三者協議(学生、教員、職員)を延べ2回以上開催する。

イ 学生の就職に関する具体的方策

① 就職率(就職者数(進学者を含む。)÷卒業者数×100)を平成32年度までに85%以上に高める。【数値目標】【48】

(ア) 就職率(就職者数(進学者を含む。)÷卒業者数×100)84.4%以上を目指す。

② 教員就職者数(臨時的任用を含む。)を平成32年度末までに当該年度200名以上を目指す。【数値目標】【49】

(ア) 教員就職者数(臨時的任用を含む。)194名以上を目指す。

(イ) 引き続き特任教員2名を採用し、各県教育委員会の採用情報を入手する。

③ 卒業後のアフター・ケアも生かした卒業後支援体制を充実させる。【50】

(ア) 教職支援センターの教員が近県に出向き教職支援交流会を開催し、採用2～3年目の教師を中心に悩み等を聞き支援を行う。

④ 本学の各同窓会支部や後援会との連携及び組織強化を図る。【51】

(ア) 同窓会の支援を受けて、現役学生との懇話会や模擬面接体験会を実施する。また、企業就職のOB・OGによる講演会と交流会を実施する。

(イ) 後援会と連携し、教員採用試験対策講座、公務員試験対策講座、資格取得講座等の就職対策講座を実施する。

⑤ インターンシップの支援を行う。【数値目標】【52】

(ア) インターンシップ参加学生数延べ44名以上を目指す。

ウ 学生の経済的支援に関する具体的方策

① 授業料減免枠(授業料調定額の6%)の維持、拡大を図る。【53】

(ア) 授業料減免に関する運用基準の見直しや免除枠の維持・拡大について検討する。

(イ) 大学基金を設置して、修学支援事業(授業料免除、学資の給付等)の実施体制を整備する。

② 独自の奨学金制度の見直し、充実を図る。【54】

(ア) 独自の奨学金制度について、必要に応じ見直しを行い制度の充実に努める。

③ 学生の自主的活動(チャレンジ・プロジェクト)の支援を行う。【数値目標】【55】

(ア) 引き続き、チャレンジプロジェクト実施件数3件以上を目指す。

④ 課外活動支援を充実する。【56】

(ア) 学生表彰規程の基準に基づき表彰を実施する。

⑤ 学生の健全な食生活を支援する。【57】

(ア) 学生の健全な食生活を支援するため、学食において100円朝食を実施する。

(イ) 後援会が外部講師を招いて開催する「ひとり暮らしの料理教室」を支援する。

- ※1 学術情報リテラシー教育:学術に係る情報機器やネットワークを活用して、情報やデータを取り扱う上で必要となる基本的な知識や能力を身につけるための教育
- ※2 特別支援学校教諭一種免許:特別支援学校(視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者など特別な教育支援を必要とする子どもたちを対象とする学校)の教員が有する資格。1種免許状は、特別支援教育を担当する教員の標準的な免許状として、すべての障害種別に共通する基礎的・専門的知識・指導方法を身に付けるとされている。
- ※3 GPA制度:授業科目ごとの成績評価に対して、GP(グレードポイント)を付し、この単位当たりの平均を出し、その一定水準を卒業などの要件とする制度。
- ※4 アドミッション・ポリシー:入学者受入れ方針
- ※5 カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成方針
- ※6 持続的発展教育(ESD):持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)の略称
- ※7 ディプロマ・ポリシー:卒業認定・学位授与に関する方針
- ※8 シラバス:各授業科目の詳細な授業計画
- ※9 e-ラーニング:コンピュータやインターネット等のIT技術を活用して行う学習
- ※10 「教育首都つる」:都留市自治基本条例第12条第2項には、「都留文科大学は、その知的資源を活用し、教育首都を目指したまちづくりに寄与するものとします。」とされ、都留文科大学を中心として、市民と学生が集い、学問や文化・芸術・体育が融合した学園のまちの総称。
- ※11 ラーニング・コモンズ:図書館などに設けられ、学生同士が議論し知識を求め、ともに考える場(総合的な自

主学習のための環境)

※12 FD: 大学等の理念・目標や教育内容・方法を改善するための組織的な研究・研修などの取り組み。

2 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の水準に関する目標を達成するための措置

- ① 研究の水準・成果の検証に当たって、認証評価機関による評価を受ける。【58】
(ア) 次回の認証評価機関(大学基準協会)による外部評価のため、研究に関する制度・体制等について整備を進める。
- ② 機関リポジトリ※13による学術論文をはじめ多様な機会をとらえて研究成果を公表する。【数値目標】【59】
(ア) 引き続き、本学学術機関リポジトリに年間25論文の登録(公表)を目指す。
- ③ 出版助成制度の活用を促進する。【数値目標】【60】
(ア) 引き続き、出版助成制度利用件数3件以上を目指す。
- ④ 学術研究費等補助金(特別研究)対象研究を公開する。【数値目標】【61】
(ア) 引き続き、学術研究費等交付金(特別研究)対象研究公開率100%を目指す。
(公開するものは、前年度末までに研究が完了したもので、特別な理由により公開しないものは除く。)
- ⑤ 学術研究費等補助金(重点領域研究)対象研究を公開する。【数値目標】【62】
(ア) 引き続き、学術研究費等交付金(重点領域研究)対象研究公開率100%を目指す。
(公開するものは、前年度末までに研究が完了したもので、特別な理由により公開しないものは除く。)

(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 研究者等の配置に関する具体的方策

- ① 大学COC支援機構※14に特任教員を配置し、教育研究プロジェクト、地域貢献事業を推進する。【63】
(ア) 大学COC推進機構に配置した特任教員を中心に、フィールド・ミュージアム部門の調査・検討に基づく事業を実施する。
(イ) 大学COC推進機構に配置した特任教員を中心に、発達援助部門の地域教育相談事業を推進する。
(ウ) 大学COC推進機構に配置した特任教員を中心に、暮らしと仕事部門の調査・検討に基づく事業を実施する。

イ 研究の質の維持・向上システムに関する具体的方策

- ① 基盤的研究費を確保し、競争的経費を充実する。【64】
(ア) 各専任教員に対し学術研究費交付金の申請・交付を推進する。
- ② 研究の質の向上のため、外部資金の獲得を促進する。【数値目標】【65】
(ア) 科学研究費補助金申請者(分担者を含む)数の専任教員に占める割合70%

以上を目指す。積算＝(継続(単独・分担)＋新規単独分申請(H29年度申請)
＋新規分担採択)／全専任教員(専任＋特任A・B)

ウ 研究環境の整備に関する具体的方策

① 研究室等の整備、設備の共同利用を促進する。【66】

(ア) 国際教育学科の新設に伴い新講義棟に研究室を設置するとともに、非常勤講師のための非常勤控室を整備する。

② 学部等専門領域を生かし先進的な研究を推進するとともに、今日的な地域課題の解決に資する研究を推進する。【数値目標】【67】

(ア) 引き続き、重点領域研究費交付金5件以上の交付を目指す。

(イ) 引き続き、若手教員研究促進交付金7件以上の交付を目指す。

(ウ) 引き続き、特別教育研究費交付金5件以上の交付を目指す。

※13 機関リポジトリ:機関所属者の研究成果である論文等、大学及び研究機関等において生産された電子的な知的生産物を保存し、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫

※14 大学COC支援機構:COC(Center of Community =地(知)拠点)推進機構。大学のあらゆる資産を地域社会の多様な分野で活用し、学生の主体的学びを通じて、地域社会との双方向の連携を進め、大学と地域社会との新たな発展を生み出していくことで地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としている。

3 地域貢献及び国際化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置

ア「教育首都つる」の推進に関する具体的方策

① 生涯学習、人材育成、文化、国際交流、理数教育等に関する共同事業や支援事業を実施する。【68】

(ア) 大学コンソーシアムやまなしと共催で県民コミュニティカレッジ地域ベース講座を実施する。

(イ) 「子ども公開講座」と「市民公開講座」を開催する。

(ウ) 知的障がいや発達障がいのある子どもとの交流を図るクロスボーダー・プロジェクト(クロボ)の活動を月1回(長期休暇中は除く)開催する。

② 地域教育相談、現職教員への指導等を実施する。【数値目標】【69】

(ア) 引き続き、地域教育相談(教員向け)受付件数500件以上を目指す。

(イ) 引き続き、現職教員講座参加者50名以上を目指す。

(ウ) 引き続き、教員免許状更新講習参加者450名以上を目指す。

③ 教育研究の成果を教育現場、県市町村自治体、文化施設・団体、産業界等に還元するための情報発信を積極的に行う。【70】

(ア) 地域と大学をつなぐ刊行物である「地域交流センター通信」「フィールドノート」や、地域貢献活動や研究活動をまとめた「地域交流研究年報」を発行する。

(イ) 長期保存すべき大学の発行物等についてのデジタル化を推進する。

- ④ 地域利用者に対し、教育研究に支障のない範囲で施設、所蔵図書資料、情報機器等の設備、調査・相談サービスを広く開放する。【数値目標】【71】
 - (ア) 引き続き、大学附属図書館学外者館内利用人数500名以上を目指す。
 - (イ) 引き続き、施設市民開放件数延べ40件以上を目指す。
- ⑤ 行政や市民と教職員との対話の場を設けるなど、市の実状の把握やまちづくり事業等に関する情報の収集に努め積極的に参加する。【72】
 - (ア) 都留市が設置・主催する審議会、協議会などに教職員が参加する。
 - (イ) 都留市議会議員と大学執行部との意見交換会を開催する。
- ⑥ 市内に所在若しくは市に関係する高等教育機関や市内高等学校との連携に主体的に取り組む。【73】
 - (ア) 都留市及び市内に所在する健康科学大学、山梨県立産業技術短期大学校と連携し、大学コンソーシアムつるにおける事業を展開する。
- ⑦ 山梨県立都留興譲館高等学校との協定に基づき、教育内容の充実と学生及び生徒の資質の向上を図るための事業(高大連携事業)に継続的に取り組む。【74】
 - (ア) 協定に基づく高大連携事業として、地元都留興譲館高等学校との高大連携授業を実施する。
 - (イ) 都留興譲館高等学校との高大連携事業を進める中で、高大接続を睨んだ入学者選抜方法について検討を行う。
- ⑧ 市内小中学校との連携・協力によりSAT※15 事業の充実に努めるとともに、大学での指導を向上させ、現場に行く学生(SAT)の質を高める。【数値目標】【75】
 - (ア) 引き続き、SAT派遣学生数延べ400名以上を目指す。
- ⑨ 都留文科大学附属小学校をパイロット団体として今日的教育課題に取り組む。【76】
 - (ア) 都留文科大学附属小学校の教育課程特例校事業に関し、カリキュラム開発、教材作成等の支援を行うとともに、研究授業において指導助言を行う。
- ⑩ 市内外の学校ボランティア活動、学童保育等への学生派遣に協力する。【77】
 - (ア) 都留市放課後子ども教室事業の運営に協力する。
 - (イ) 市内外の学校ボランティア活動への学生派遣に協力する。

イ 産学官連携の推進に関する具体的方策

- ① 包括的連携協定を締結した山梨県と共同プロジェクトを実施する。【78】
 - (ア) 山梨県との包括的連携協定に基づき、両者の所有する知的資源、人的資源及び物的資源の活用や共同事業を実施する。
- ② 自治体、NPO、企業、文化団体等との連携による共同プロジェクトを実施する。【79】
 - (ア) 大学COC推進機構を中心として、自治体、NPO、企業、文化団体等と連携し研究共同プロジェクトを実施する。

ウ 社会人の受け入れに関する具体的方策

- ① 社会人の受入促進を図るため、都留で学ぶ社会人のための独自プログラムを策定し実施する。【80】
 - (ア) 都留市が展開する大学連携型CCRC事業との連携を進める中で、社会人の受入促進のため、市民公開講座等の充実・拡大を図る。
 - (イ) 都留で学ぶ社会人のための独自プログラムとして、専門性の高い研究活動の報告会等を実施する。

(2)国際化に関する目標を達成するための措置

ア 教育における国際化に関する具体的方策

- ① 国際交流センターの充実を図る。【81】
 - (ア) 増大する課題や専門性に対応していくため、国際交流センターを国際交流センターと語学教育センターに再編する。
- ② 都留で学ぶ留学生のための独自プログラムを実施する。(27～32年度)【数値目標】【82】
 - (ア) 都留で学ぶ留学生のための独自プログラム(JASTプログラム)14名以上の受け入れを目指す。
 - (イ) 引き続き、留学生のための富士山バスツアーを実施するとともに、信玄公祭り、八朔祭りに留学生の参加を促進する。
 - (ウ) 留学生のための書道・華道・茶道・座禅教室を開催する。
- ③ 国際交流の拡大とグローバル人材養成のため、交換留学生の宿舎となる国際交流会館(仮称)を建設する。(27年度)【83】(27年度実施済)
- ④ 協定大学において実施される留学フェア(合同説明会)に教職員を派遣する。【数値目標】【84】
 - (ア) PR活動のため協定大学に4名以上教職員を派遣する。
- ⑤ グローバル教育奨学金や遊学奨励金等により、海外協定大学間での学生の交流を充実する。【数値目標】【85】
 - (ア) グローバル教育奨学金156件以上の給付を目指す。
 - (イ) 引き続き、遊学奨励金3件以上の給付を目指す。

イ 研究における国際化に関する具体的方策

- ① 協定大学等の高等教育機関と、日本、都留の歴史・文化研究の交流を図る。【86】
 - (ア) 留学協定校であるラトガーズ大学にリンクし公開した本学の「Digital archives: Mt. Fuji related old books=富士山関連貴重書籍」10件の解説をすべて日英2ヶ国語で標記する。
- ② 外国人研究者・留学生を対象とした研究・学習支援や生活支援等の受け入れ体制を充実する。【数値目標】【87】
 - (ア) 引き続き、留学生チューター40名以上を確保する。
- ③ 国際共同研究を支援・推進するための制度を充実し、特に、教育分野における国際協力を積極的に推進する。【88】

- (ア) 国際共同研究について、学術研究費等交付金の利用が促進されるよう教員に対して周知や支援を行う。

※15 SAT:学生アシスタントティーチャー制度。教員志望の学生の実践教育として、児童・生徒の放課後指導やサポートに当たる学生を市内小中学校へ派遣する制度。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

ア 教育研究組織の柔軟かつ機動的な編成・見直しや人事制度の改善、それらの実効性を担保するための戦略的な学内資源配分など組織運営の改善に関する具体的方策

① 学校教育法改正に伴う学内諸規程の整備を行う。【89】

(ア) 引き続き、学校教育法改正に伴う学内諸規程の整備を随時行う。

② 各種委員会等の役割を見直し、必要に応じて再編、統合を進める。【90】

(ア) 今後の入試改革の動向を把握し、適切かつ長期的に対処するために入学センターを設置するとともに、入試関係委員会の見直しを行う。

③ 教職員の多面的な業務内容に関する評価システム(業績評価・改善システム)を構築する。【91】

(ア) 大学ホームページの研究者紹介において、各専任教員の研究・教育業績一覧の更新を行う。

(イ) 引き続き、教員業績評価を実施する。【再掲】

④ 他機関との人事交流、外部人材の登用等を促進する。【92】

(ア) キャリア支援センターの就職アドバイザーとして、小中学校退職教員2名を採用し、教員関係相談員の5名体制を維持する。

(イ) ハローワーク都留と連携し、就活セミナー、就職相談会を実施する。

(ウ) サービス業専門アドバイザーを活用し、面談業務やエアライン特別セミナー、サービス接遇検定講座を実施する。

イ 人事評価システムの整備・活用及び柔軟で多様な人事制度の構築に関する具体的方策

① 教員の業績評価及び事務職員評価について、その評価システムを確立し、給与等への反映などインセンティブに活用する。【93】

(ア) 引き続き、教員業績評価を実施する。【再掲】

(イ) 引き続き、事務職員の業績評価を実施する。

ウ 内部監査機能の充実に係る具体的方策

① 監査室及び監査法人による計画的な監査を実施する。(27～32年度)【数値目標】【94】

(ア) 引き続き、監査室による定例監査を2回以上実施する。

② 監査業務に従事する職員の専門性の向上を図る研修機会を設ける。【95】

(ア) 職員を対象とした公立大学法人会計事務研修会を実施する。

(2)多様な教職員の活躍の促進に関する目標を達成するための措置

ア 人事計画に関する具体的方策

- ① 戦略的、計画的に職員の人事配置を行う。【96】
 - (ア) 学部・学科改編への対応業務の増加に伴う適正な人事配置体制について検討を行う。
- ② 任期制など多様化する雇用形態に柔軟に対応すべく、公募制を原則とした教員選考を行う。【97】
 - (ア) 平成30年度教員配置計画を策定する。【再掲】
- ③ 市と協議しながら、計画的に大学固有の職員を採用し、専門的能力を発揮することができる人材養成に努める。【98】
 - (ア) 本学の運営上特に必要な業務に従事させるため、特命教授としての平成30年度採用予定者を決定する。

イ 教職員の給与制度に関する具体的方策

- ① 教員の業績評価及び事務職員評価について、その評価システムを確立し、給与等への反映などインセンティブに活用する。【再掲】
 - (ア) 引き続き、教員業績評価を実施する。【再掲】
 - (イ) 引き続き、事務職員の業績評価を実施する。【再掲】

ウ 健康安全管理に関する具体的方策

- ① 労働安全衛生法等に基づく安全衛生管理について、学内外に周知、公表する。【99】
 - (ア)労働安全衛生法第18条に基づく衛生委員会を開催し、職員の衛生管理についての審議を行う。
- ② 学生、教職員の定期健康診断を実施する。【数値目標】【100】
 - (ア) 学生の定期健康診断(内科検診)実施率87%以上を目指す。
 - (イ) 引き続き、教員の定期健康診断受診率100%を目指す。
 - (ウ) 引き続き、職員の定期健康診断受診率100%を目指す。
 - (エ) 受診率向上のため、教職員の定期健康診断の実施方法について検討を行う。

(3)事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

ア 事務処理の効率化・合理化や事務組織の機能・編成の見直し等に関する具体的方策

- ① 企画立案機能など専門職性の高い事務組織の機能を活性化させる。【101】
 - (ア) 学部・学科改編への対応業務の増加に伴う適正な人事配置体制について検討を行う。【再掲】
- ② 施設の有効活用等を推進する。【数値目標】【102】
 - (ア) 引き続き、施設市民開放件数延べ40件以上を目指す。【再掲】
- ③ 大学職員の職能成長(SD:スタッフ・ディベロップメント※16)による人材育成及び

資質向上計画に基づき多様な研修を実施する。【103】

(ア) 人材育成及び資質向上に向け、多様な研修会を実施する。

(イ) 文部科学省、公立大学協会、その他外部団体等が開催する職員研修に積極的に職員を派遣する。

(ウ) PR活動のため協定大学に4名以上教職員を派遣する。【再掲】

※16 SD:スタッフ・ディベロップメント:職員、教員を含めた組織的な職能開発への取り組み。

5 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

ア 科学研究費補助金、受託研究、奨学寄附金など外部資金増加に関する具体的方策

① 研究助成等に関する情報収集機能等を強化する。【104】

(ア) 本学HPの研究に関する情報内容を充実するとともに、学内サイトにおいて研究者に収集した情報を提供する。

② 科学研究費補助金及び公募型民間助成への申請件数の増加に努める。【数値目標】【105】

(ア) 科学研究費補助金申請者(分担者を含む)数の全専任教員に占める割合70%以上を目指す。積算=(継続(単独・分担)+新規単独分申請(H29年度申請)+新規分担採択)/全専任教員(専任+特任A・B)【再掲】

③ 社会人対象の公開講座を実施し、自己収入の増加に努める。【106】

(ア) 社会人対象の有料公開講座の実施について、調査・検討を進める。

④ 資金運用を行い、自己収入の増加を図る。【107】

(ア) 市場の金利動向を踏まえ、金融機関等の定期預金や国債等の証券など、有利かつ確実な金融商品を選定し、短期又は中長期の資産運用を行う。

(イ) 寄附金等の受け入れを促進するため、大学基金を設置して、実施体制を整備する。

(2) 予算の適正かつ効率的な執行に関する目標を達成するための措置

① 日常的に節電、節水など、省資源、省エネルギーについて教職員の意識改革に努める。【数値目標】【108】

(ア) 引き続き、一般管理費を経常費用の8%以内に抑制する。

(イ) 引き続き、水道光熱費を一般管理費の10%以内に抑制する。

(ウ) 学内会議資料のペーパーレス化について検討を行い導入を推進する。

(3) 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

① 施設・設備等について、教育研究連携や地域開放を含めた効率的・効果的な運用・管理を図る。【数値目標】【109】

(ア) 引き続き、施設市民開放件数延べ40件以上を目指す。【再掲】

6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 評価の充実に関する目標を達成するための措置

- ① 自己点検・評価を実施し、その結果を踏まえて関係組織に対して改善策を示し、大学の方針を踏まえ全学的見地から調整を行う。【110】
 - (ア) 自己点検・評価実行委員会を開催し、自己点検評価について学内関係組織との協議・調整を行う。
- ② 認証評価機関による外部評価を定期的実施する。【111】
 - (ア) 次回の大学基準協会による外部評価に合わせ、各種統計数値等を更新する。

(2) 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置

ア 大学情報の積極的な公開・提供及び広報に関する具体的方策

- ① 教育活動、研究活動、地域貢献活動、国際交流活動等について、組織的に情報を収集・分析整理し、多様なメディアを活用して国民に分かりやすく積極的に公開する。【112】
 - (ア) 大学案内とホームページの連携・一体化した改訂を行い、本学に関する情報をわかりやすく一貫性を持った内容で提供する。
 - (イ) 富士急行ラッピングバスや新聞広告等、様々な広報活動を展開し、本学の情報を積極的に発信していく。
 - (ウ) ホームページを活用した情報発信について、ホームページのリニューアルに伴い、本学の教育活動、研究活動、地域貢献活動、国際交流活動等について、更に分かりやすく積極的に公開する。

7 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

(1) 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

- ① 本学を中心として、市民と学生が集い、学問や文化・芸術・体育が融合した学園のまちを総称する「教育首都つる」の実現に向け、中長期的な整備計画(キャンパスグランドデザイン「まちとつながり森に溶け込む“知のフォレストキャンパス(仮称)”」)を策定し、実施する。【再掲】
 - (ア) 「知のフォレストキャンパス(仮称)」構想を策定し、実施する。【再掲】
- ② ラーニング・コモンズとして学生の自学・自習スペースを整備する。【再掲】
 - (ア) 新講義棟にラーニング・コモンズとして学生の自学・自習スペースを設置する。【再掲】

(2) 安全管理に関する目標を達成するための措置

ア 労働安全衛生法等を踏まえた安全管理・事故防止に関する具体的方策

- ① 安全なキャンパス環境の維持のため、各種のセキュリティ対策を講じる。【113】
 - (ア) 防犯カメラの設置、外灯の整備を行う。
- ② 学生等の安全・安心な環境確保のために、関係行政機関等との連携を図るなど、危機管理体制を充実させる。【114】

- (ア) 学生の安全環境確保のため、防災訓練に関して地元自治会との連携を図る。
- ③ あらゆる危機に対応するための包括的危機管理マニュアルの策定等を検討し、策定後は、当該マニュアルの点検整備を継続的に行う。【115】
- (ア) 防災基本マニュアル等の点検整備を行う。

イ 情報セキュリティ対策に関する具体的方策

- ① 情報セキュリティポリシーに基づき、大学構成員の情報モラルの意識向上を図る。
【116】
- (ア) 情報セキュリティポリシーを策定し、情報モラルの意識向上のため学内への周知・普及を図る。

(3) 法令遵守に関する目標を達成するための措置

ア 法令遵守に関する具体的方策

- ① 教職員及び学生に対し、法令遵守等に関する多様な研修会等を実施する。
【117】
- (ア) 教職員及び学生を対象に、法令遵守等に関する研修会等を実施する。
- (イ) 法令遵守を推進するため、研修会等の実施により役職員の意識高揚を図る。
- (ウ) 研究不正に関する基本方針や行動規範について周知するとともに、研究不正防止計画を推進する。
- (エ) 研究不正防止計画を推進し、コンプライアンス教育及び研究倫理教育を実施する。

イ 個人情報の保護に関する具体的方策

- ① 個人情報の保護に関する規程に基づき、適正な個人情報保護に努め、その体制の充実を図る。【118】
- (ア) 個人情報の保護に関する規程に基づき、適正な個人情報の保護に努める。

(4) 環境への配慮に関する目標を達成するための措置

- ① 環境負荷の低減や循環型社会の実現に寄与する活動を推進する。【数値目標】
【119】
- (ア) 引き続き、一般管理費を経常費用の8%以内に抑制する。【再掲】
- (イ) 引き続き、水道光熱費を一般管理費の10%以内に抑制する。【再掲】
- (ウ) 学内会議資料のペーパーレス化について検討を行い導入を推進する。【再掲】
- ② 都留市環境基本計画に基づき、学生や市民等を対象に環境教育を実施する。
【120】
- (ア) 各種の環境分野で活躍できる人材を育成することを目的とした環境ESDプログラムの充実を図る。【再掲】

II 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画

1 予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,417
（施設整備費等補助金以外）	(1,007)
（施設整備費等補助金）	(410)
授業料等収入	1,545
受託研究等収入	0
その他の収入	378
繰越積立金取崩収入	373
目的積立金取崩収入	25
計	3,738
支出	
人件費	1,923
（退職金以外）	(1,806)
（退職金）	(117)
一般管理費	1,026
（施設整備費以外）	(291)
（施設整備費）	(735)
教育研究費	789
受託研究等経費	0
計	3,738

(人件費の見積り)

総額 1,923 百万円を支給する。

注) 人件費の見積りについては、平成 28 年度の人件費見積額に、役員報酬及び教職員の給料、諸手当並びに法定福利費に相当する費用を試算したものであり、定期昇給、特別昇給、ベースアップ分は含まない。

注) 退職手当は、公立大学法人都留文科大学職員退職手当規程の規定に基づき支給し、当該年度において算定された相当額が運営交付金として財源措置される。

2 収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	3,738
経常経費	3,738
業務費	2,712
教育研究費	789
受託研究費等	0
人件費	1,923
一般管理費	1,026
財務費用	0
雑損	0
臨時的損失	0
収入の部	3,340
経常収益	3,340
運営費交付金	1,417
授業料等収益	1,545
受託研究費等収益	0
その他収益	378
財務収益	0
雑益	0
臨時収益	0
当期純利益	△398
繰越積立金取崩益	373
目的積立金取崩益	25
純益	0

3 資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	3,738
業務活動による支出	3,738
投資活動による支出	0
財務活動による支出	0
次期中期目標期間への繰越金	0
資金収入	3,738
業務活動による収入	3,340
運営費交付金による収入	1,417
授業料等による収入	1,545
受託研究等による収入	0
その他の収入	378
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前期中期目標期間からの繰越金	373
目的積立金取崩による収入	25

III 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2 億円

2 想定される理由

運営費交付金の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることを想定する。

IV 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

V 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合には、教育・研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

VI 施設及び設備に関する計画

(単位:千円)

施設及び設備の整備内容	予 定 額	財 源
・知のフォレストキャンパス整備 (新校舎建設関連)	600,000	運営費交付金・繰越積立 金等
・その他施設・設備整備費	12,420	//
	合計 612,420	

VII 積立金の使途

なし

VIII その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし